



J A 長門大津が県域物流に参加

「J A 長門大津 全農県域物流出発式」を開催

山口県本部



関係者がテープカットを行い、農家戸配送がスタート

また、平成30年11月に開催された第40回 J A 山口県大会議案では、スケールメリットを發揮したトータル生産資材コストの低減の実現のために、県域・ブロック域での効率的な物流体制を構築することが決議されており、その実現のために、県内全域での県域物流の導入を目指しています。今後も物流コストの削減に向け取り組んでいきます。

出発式には J A 長門大津の小田保男組合長、山口県本部の堀覚県本部長、全農物流株の山田雅宣参与ら16人が出席しました。

小田組合長が「全農県域物流に参加することにより、物流コストの低減を図り、肥料農薬の価格低減につな

げ、また、営農経済部門の組織再編を実施し、組合員へ出向く体制を構築していきたい」と述べ、テープカットし配送車両が出発しました。

J A グループ山口では平成31年4月から、県下12 J A が J A へ統合し、「J A 山口県」が発足します。

山口県本部は平成30年12月3日、長門市西深川の J A 長門大津東部営農センターで「J A 長門大津 全農県域物流出発式」を開きました。J A 長門大津の県域物流の参加により山口県では4 J A の稼働となりました。



平成30年度プラント施工管理担当者を認証

施設の多様化するニーズに対応し育成、技能向上へ

生産資材部



施設を点検するプラント施工管理担当者

後継者を育成する者」、二級は「プラントの設計・施工管理業務を遂行するのにふさわしい知識を持ち、上級認証者の指導を受けて業務を行い自らの技能向上に努める者」として、これまでに一級20人、二級52人が認証され、施設建設に関わる業務に取り組んでいます。

施設が多様化するニーズに対応し、規模決定、基本設計、施工業者選定、施工管理を施主の立場に立って実施・支援する担当者の育成と技能向上をはかるため、全農は平成26年度より認証制度を設けています。

一級認証プラント施工管理担当者は、「自ら業務を行う他、自己研さんに努め、

選果場等の共同利用施設は、生産物を均質かつ大量に処理する機能に加え、働き手の不足等からプラント設備の省力化・効率化等の他、老朽化した設備の更新・修繕保守費用の低減も求められています。

全農は平成30年度プラント施工管理担当者認証試験を実施し、これに合格した「一級認証プラント施工管理担当者」2人、「二級認証プラント施工管理担当者」7人を平成30年11月28日、それぞれ認証しました。

温泉熱利用の「雪ばなな」、今春出荷を目指す

東北初のバナナ栽培、新たな特産品を支援

山形県本部

開発に山形県本部が協力した国産バナナ「雪ばなな」の誕生発表会が平成30年12月19日、山形県戸沢村で開催されました。東北で国産バナナが栽培されるのは初めてです。

「雪ばなな」の開発は28年10月、JAおいしいもがみ(旧JA山形もがみ)で始まり、新たな地域の特産品を作ろうと、JAの依頼を受けた県本部が、沖縄県

から苗木を購入し、JAに供給しました。バナナは気温が15度以下になると仮死状態になるため、戸沢村の温泉施設「ぽんぽ館」から約60度の源泉を、隣接するハウスに引き込み、ボイラーと併用し、冬でも室温を15度以下にならないよう保っています。

バナナは順調に生育しており、今春の出荷を見込んでいます。山形県本部とJAでは、関東圏の百貨店や県本部が運営する「みのるみのりマルシェ」などでの販売を予定しています。



南国ムードの漂うハウスでたわわに実るバナナ(JAおいしいもがみ提供)

バナナは順調に生育しており、今春の出荷を見込んでいます。山形県本部とJAでは、関東圏の百貨店や県本部が運営する「みのるみのりマルシェ」などでの販売を予定しています。



「雪ばなな」のぼり

カーリング女子日本代表がW杯初優勝！

世界大会での高いパフォーマンスを食で応援

広報部

全農は、「カーリングワールドカップ2018」第2戦に合わせ、女子日本代表の口コ・ソラーレの選手に食材を提供しました。

12月5〜9日にアメリカ・オマハで行われた「カーリングワールドカップ2018」第2戦で、女子日本代表が世界大会では念願の初優勝を飾りました。11月に韓国(江陵市)で行われたパシフィックアジアカーリング選手権大会の準優勝で弾みをつけ、本大会では強豪国を相手に高いパフォーマンス

を最後まで持続しました。

全農は、お米やドライフルーツなどを第1戦から提供しており、優勝した口コ・ソラーレの選手より感謝のメッセージをいただきました。

全農は、これからも食を通じてカーリング女子日本代表を応援していきます。



成田空港で初優勝の記者会見をする藤沢五月選手、吉田知那美選手、鈴木夕湖選手、吉田夕梨花選手(左から)



準優勝したパシフィックアジアカーリング選手権大会での食材提供

全農のみなさま

いつも応援いただき、また、遠征時においしい国産食材をたくさんご提供くださりありがとうございます！

おかげさまでもちまして、ワールドカップ2nd legにて優勝することができました！

みなさまからの温かいご声援と国産食材が力になっています！

これからもがんばっていきますので引き続き応援よろしくお願います！

中国駐日本国大使館の宋公使(右)に新潟県産米を手渡す新潟県本部の今井会長



出荷式に出席した、前列左から花角新潟県知事、今井新潟県本部会長、宋中国駐日本国大使館公使、長澤会長、吉川農林水産大臣、高鳥修一農林水産副大臣、神出元一理事長

新潟県産米の中国向け輸出を再開

昨年11月の解禁後初の輸出で出荷式開く

全農グループは、昨年11月の解禁後初めて、中国向けに新潟県産米を輸出することに合わせ1月8日、横浜港で出荷式を開きました。

【輸出対策部】

2011年3月の東日本大震災後、中国は新潟など10都県の全ての農林水産物・食品の輸入を停止してしまいましたが、このうち、新潟県産の米に限り、昨年11月に輸入停止措置を解除しました。全農グループは解禁後初めて輸出することに合わせ、横浜市で出荷式を開きました。

長澤豊会長はあいさつで、「今回、新潟県産米の8年ぶりとなる中国向け輸出再開の第一歩を踏み出したことについては、関係者の皆さまのご尽力、ご支援によるものと厚くお礼申し上げます。全農グループは、中国の皆さま方に親しんでいただけるよう、これからも安全・安心、一層の品質向上に努め、JAグループ一丸となつて、一步一步着実に輸出に取り組んでまいりたいと思う」と述べ

ました。

来賓の吉川貴盛農林水産大臣から「私たちの長年の思いであった、このたびの新潟県産米の輸出は画期的なことだと思う。全農の皆さんには、日本の農業を支える連合会としてこれからも輸出に向けてしっかりと取り組みをお願いしたい」とのあいさつがありました。

また、宋耀明中国駐日本国大使館公使、花角英世新潟県知事からあいさつがあった後、新潟県本部の今井長司会長から宋公使に、新潟県産米の引き渡しが行われました。

今回、全農子会社のJA全農インターナショナル株式会社が新潟県産米「コシヒカリ」1トンを試験的に輸出。1月9日に横浜港を出港し、1月末には、上海市内にある日本産食品を扱う店舗で販売開始される見込みです。

全農グループは、これからも国産農畜産物の輸出拡大に取り組んでいきます。



今回輸出された新潟県産米が販売される上海市内の店舗「瀛之糧品(えいのりょうひん)」の売り場



中国へ輸出される新潟県産米

特別寄稿

(転載)

西日本大豪雨

昨年夏、西日本を襲った大豪雨で、瀬戸内海沿岸地域で、多くの溜池たらい池が決壊した。大きな河川が存在しないこの地域では、古く中期から溜池が造られてきた。

私は地域社会の共同資本でもあった溜池の復興に、大きな不安を覚えるを得ない。農地政策における最近の潮流からすると、「無駄な溜池の復興」ではなく、「災害を契機として農地の取引においても市場原理を適用する」といったことになるのではないか。端的に表現して、このような議論は「現実が悪いのだから、現実をぶち壊せ」という議論であり、市場原理をモデルとして現実を整理せよという



はら・ようのすけ 1944年兵庫県生まれ。東京大学農学部農業経済学科卒。東京大学東洋文化研究所教授を経て、現職。著書に『エリア・エコノミクス』『新東亜論』『東アジア経済戦略』『「農」をどう捉えるか』『北の大地・南の列島の「農」』。共著に『危機の思想』『「文明」の宿命』など。

新自由主義の主張である。このような政策では、人口減少下の日本

で、人の空洞化、土地・農地の空洞化、そしてムラの空洞化という「三つの空洞化」が急速に進んでいる。中山間地農業・農村が崩壊してしまうのはほぼ間違いないであ

農における新自由主義の脅威

溜池決壊を機に考える

政策研究大学院大学シニア・フェロー 原洋之介

ろう。

金融資本主義にとって「他人の領域」の農業

日本農業経済学の創設者であっ

た東畑精一(1889-1983)

は、銀行は将来の利益率が不確実な農業への信用供与には消極的にならざるを得ないと論じている(『農業信用の理論』)。

また、前世紀最大の歴史家とも称されるフェルナン・ブローデル(1902-1985)は、資本主義にとって、農業は資本形成の時間が長く、収益が不確実でリスク

産的土地所有が急増したという現実から、「所有権を農業生産力を

挙げる魔法の黄金のように考えていた思想が崩壊した」と述べている(『昭和農政談』)。こうした事態に対処するには農地の公的管理の必要性を論じ、それを言い出したのが柳田国男(1875-1962)であったと指摘している。「柳田先生は、本来であれば土地の所有権を、農業を本業としてゆるく農家に与えるべきであるけれど、日本の土地の私的所有権というものを強制的にそういう

者に与えるということは大変な問題である。したがって、土地の利権―普通は賃借権―を公的に管理することの必要性を説かれたのです。

ケインズの反金融資本主義論と農業・農村論

21世紀世界での国民経済のあるべき姿を構想するとき、金融資本が中核の担い手となっている世界経済統治レジームの改革も、必須の課題のいずれである。

ケインズ(1883-1946)

は、「金融的計算という原則に従うことによって、我々は、田舎の美しさを破壊し、星や太陽を遮り、ロンドンを芸術の都にすることに失敗したのである」(『国家的自給』)といい、金融資本主義もたらす災禍を強調した。

瀬戸内海沿岸での溜池の再建は、国土強韌化政策の重要な一環である。その推進のためにも、ケインズの洞察とともに、日本農政史の底流を支えていた柳田の「国富の源泉」としての農地・土地論を復権させることが急務となっているはずである。

【要約】

本稿は雑誌『表現者 クライテリオン』(啓文社書房)の連載「農は国の本なり」の第3回記事(2018年11月号)を、著者・出版社の承諾を得て要約・掲載させていただいたものです。

『表現者 クライテリオン』の購読はこちら

オフィシャルホームページ ● <https://the-criterion.jp/>

問い合わせ先：啓文社書房

Tel ● 03(6709)8872 e-mail ● info@kei-bunsha.co.jp

職員の事業貢献への尽力をたたえ 初の「会長賞」「理事長賞」授与

全農は、今年度新たに創設した「会長賞」「理事長賞」の表彰式を
平成30年12月に東京・大手町のJAビルで行いました。【人事部】

全農では、職員の農業振興の取り組みや事業への貢献等を称え公表することにより、職員・職場の一層の意欲向上を図ることを目的に、従来の特別表彰体系を見直しました。

今年度新たに創設した「会長賞」と「理事長賞」を決定し、以下のグループ・個人が受賞しました。

今後も定期的に表彰を実施し、「褒める文化」の醸成をすすめます。



会長賞を受賞した皆さん



理事長賞を受賞した皆さん

受賞者	内容
岡山県本部	<p>農業労働力支援の取り組み(先行事例)</p> <p>平成23年度から生産者の高齢化・労働力不足により、野菜の生産面積が減少傾向にあったことから、産地の生産基盤の維持・拡大のために運送会社と協力し、収穫作業などを請け負う「労働力支援」と農家の経営安定のために「値決め買取り」に取り組んだ。</p> <p>29年度は県内6JA、35.65%の実績となった。</p>
大分県本部	<p>農業労働力支援の取り組み(普及拡大事例)</p> <p>農業現場における労働力不足への対応として「労働力支援事業」に5年前から取り組み、生産振興や新規就農支援に貢献した。</p> <p>平成29年度は労働力支援で延べ1万5000人役の支援実績となり、大分県全域での展開と年間を通じ作業員確保も可能となり、農家が必要な時に必要な分だけ支援を頼める仕組みが整えられた。</p>
本所 耕種総合対策部、肥料農薬部、生産資材部	<p>生産資材コスト低減の取り組み</p> <p>農業者3団体と全農が「生産資材費低減に向けた資材事業研究会」を立ち上げ、農業者ニーズを把握し共同購入による資材費低減を実現した。</p> <p>肥料は銘柄集約と全国で7万トンの予約を積み上げ、価格引き下げを実現。農機は現場の声を反映した大型トラクターを開発要求し、事前購入申し込み2600人の積み上げ、生産者購入価格を大幅に引き下げた。</p>
本所 燃料部 新エネルギー推進課	<p>新エネルギー事業の取り組み</p> <p>農業施設を利用した太陽光発電支援事業とJAでんきの事業構築に組み、組合員・JAへの利益還元やコスト低減に寄与した。</p>

受賞者	内容
一般社団法人山形県系統豚普及センター	<p>「業務改革・改善の取り組み」</p> <p>繁殖部門成績向上の取り組みや県本部子豚生産農場の業務受託などにより事業を拡大し、県内の養豚振興に寄与した。</p>
山形県本部 畜産部畜産販売課庄内ファームリサイクルセンター	<p>「業務改革・改善の取り組み」</p> <p>地域の畜産生産基盤を支える重要な役割を果たすとともに、業務の効率化や特長ある堆肥の生産により地域の耕畜連携にも寄与した。</p>
RESプロジェクト 本所畜産生産部、耕種総合対策部、JA全農たまご(株)	<p>「とくたま」商品開発・販売の取り組み</p> <p>「生食用鶏卵の生産方法」の特許取得し、卵かけご飯に合う「とくたま」を開発・商品化した。フード・アクション・ニッポンアワード2017で入賞後、販売エリアを全国に拡大中で販売実績も伸張している。</p>
本所酪農部 酪農の夢プロジェクト	<p>酪農の夢プロジェクト 「酪農の次世代育成支援の取り組み」</p> <p>日本コカ・コーラ(株)と共同で農業高校などへの出張授業と女性酪農家交流会を多数、開催した。この取り組みは酪農業に対する認識向上を通じ、酪農生産基盤維持の一助として次世代育成・継承促進の成果を上げるとともに、各種報道もされ、全農の名誉となった。</p>
【個人表彰】 本所生産資材部施設農住課課長 土方亨	<p>農業施設学会論文賞受賞</p> <p>農業施設学会が年に1回表彰する学会賞で、「共乾施設に導入された多品目対応型自主検定制装置の性能に関する調査研究」が論文賞を受賞。</p>

県本部 だより

滋賀県本部

自己改革 実践中!



新たな米集荷推進へ RPチームを構築

管内16JAと集荷に特化した米のプロ集団目指す

滋賀県本部は、平成30年産米の集荷について新たな集荷推進体制として、ライ

スプランナー（RP）チームを構築し取り組んできました。

RPチームが先頭に立ち 大規模生産者に対応

RPチームとは、県内16JAと滋賀県本部の各組織で形成する集荷チームのことで、販売担当やTAC、若手職員などが構成員です。その構成員の呼称をRPと統一しました。生産者への訪問活動で多様な集荷対策な

どを自らが発信・提案することで、大規模生産者など「プロの生産者への対応」を目指し、総勢約90人でスタートしました。

5月、それぞれのRPチームが集った「RPチームキックオフ大会」を開き、米穀事業で重要となる集荷に特化した、米の専門、プロ集団となるべく、RPチームの目的・目標などJAごとに決意表明を行い、本格的な活動開始へ意思統一しました。

6月には、JAグループ滋賀役職員が参加した「平成30年産近江米集荷目標必達決起大会」を開きました。決起大会でも、JAグループ滋賀が一つのまとまりとなつて米の集荷に取り組むべく、RPチームを中心に、JA集荷目標7万7000トンの達成に向け、協力していくことを確認しました。

RPチームの飛躍に期待し 米の集荷拡大さらに

平成30年産米は台風などの自然災害が大きく影響し



決起大会でRPチームの役割・取り組みを説明



「RPチームキックオフ大会」で決意表明を行い、本格的な活動開始へ意思統一

30年産米からの「事前に需要を確保し、生産者へ作付け提案する事業方式」への転換を図るためには、生産者へ出向く体制が必要であり、特に大規模生産者へは需要情報などを発信・提案していくことで、需要に応じた米の安定生産を目指していく、そのためにはRPチームが力を発揮することが重要でした。

平成30年産 近江米集荷目標必達決起大会

～生産者（組合員）との接点強化による「集荷拡大（回復）」～



JAグループ滋賀役職員が参加した「平成30年産近江米集荷目標必達決起大会」

たこともあり昨年以上の不作為となり、11月末時点で約6万5000ト（目標対比84%）の見込みとなつています。収量が低下した場合の集荷数量確保が今後の課題となりました。

単年だけでRPチームの評価は難しい所ではあります。JAが明確な目標に向かって一つになれたことから、この取り組み自体は一定の評価を得たと感じています。

滋賀県本部は、今後もRPチームを中心とした集荷推進を図り、生産者の経営安定と所得向上に向けた取り組みを実践してまいります。



悪玉コレステロールを下げる作用を確認

福島医大、「11/19-B1乳酸菌ヨーグルト」で研究発表

全農子会社の東北協同乳業株式会社が販売している「11/19-B1乳酸菌ヨーグルト」に悪玉コレステロールを下げる作用があることが、福島県立医科大学の研究で確認され、平成30年12月12日に同大学が発表しました。 【東北協同乳業(株)】

「乳酸菌11/19-B1株」は、当時東京大学薬学部の関水久教授(現帝京大学教授)がキウイフルーツの果皮から分離、発見しました。東北協同乳業では同株を使用したヨーグルト、ドリンクタイプのヨーグルトを販売。30年10月には、日本コカ・コーラ(株)から同乳酸菌を使った「ヨーグルスタンドB1乳酸菌」が発売されています。

研究では、約100人に2か月にわたって「11/19-B1ヨーグルト」と、同株が入っていないヨーグルトを食べ続けてもらった結果、悪玉コレステロール(LDL)を下げる

11/19-B1ヨーグルト(左)と同ドリンクタイプ



作用が「11/19-B1ヨーグルト」にのみ認められました。

「11/19-B1ヨーグルト」を皆さまの健康サポートにぜひ、お役立てください。

「11/19-B1ヨーグルト」はJAタウンでご購入いただけます。



JAタウン



食と農のWEBマガジン

Apron エプロン

Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc. ぜひご覧ください!

1月から「食」と「農」のエッセイスタート

Apron Web 検索 <https://apron-web.jp/>



JAタウン ショップ紹介

JAタウン | 検索 クリック

愛情いちばん館 (JA全農ちば)



情熱の賜物! しっとり大栄愛娘 (5kg・M) ……3750円

JAタウンは こちらから



千葉県北東部の肥沃な北総台地で、歳月をかけて研究を重ね、とことん味にこだわって生まれた「大栄愛娘」は、成田市大栄地区の生産者が芋作りに向けた情熱の賜物です!

裏ごしの必要のないくらいきめが細やかな、クリーム色の果肉は、冷めても変色せず、最後までしっとりとしたおいしさを味わうことができます。

大栄地区の誇る「大栄愛娘」をこの機会にぜひ、ご賞味ください!

なお、ご紹介した商品は、2/8(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。商品代金のほか、お届け先によって送料が必要となります。

JA全農のインターネット ショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com> ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。